

## 2026 年度 大学院仏教学専攻（博士後期課程） 日本語 【出題意図】

本試験問題は、博士後期課程で研究を希望する留学生に対して、日本語による文学的・思想的文章の読解力、および学術研究に必要な日本語運用能力を総合的に確認することを目的としている。素材として夏目漱石『門』の参禅場面を取り上げ、禅・公案・自己探求といった主題に関する文章を通じて、文章全体の流れを把握しつつ、登場人物の心理描写や抽象的概念を的確に理解・表現できるかを測定することを主眼とする。

### ○各設問の出題意図

- ・問1 博士後期課程で研究を進めるうえで必要となる基礎的な漢字語彙の読解力を確認する。とくに文学的・学術的文章に見られる比較的高度な語彙について、正確に読み取る能力を測定する。
- ・問2 博士後期課程で研究を進めるうえで必要となる漢字語彙の運用能力を確認する。文脈に応じて適切な漢字表記を行えるかを測定する。
- ・問3 文脈に即して語句の意味やニュアンスを判断する能力を確認する。単なる語彙暗記ではなく、文章全体の流れや心理描写を踏まえ、最も適切な表現を選択できるかを測定する。
- ・問4 文章中に示された公案の内容を把握したうえで、宗助の心理状態や思考の混乱がどのように描写されているかを整理し、簡潔に要約する能力を測定する。文章内容を客観的に整理し、自らの言葉でまとめる力を確認する。
- ・問5 本文中の対話や描写を踏まえながら、宗助の解答に何が欠けていたのかを論理的に説明する能力を確認する。文章中の比喩的・抽象的表現を理解し、その意味内容を文脈に即して説明できるかを測定する。とくに、禅的文脈における「理解」と「体得」の差異を読み取る能力を確認することを目的とする。